

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島 すずらん館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kan=true&JigyosvoCd=0170503874-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから地下鉄駅までは徒歩5分程で立地が良く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も完備し、周囲は商店街で病院も多い。街中でありながら公園や神社などもあり、普段の散歩、お祭り、催事、出店見物、お正月の初詣など季節感を味わえる環境にある。時々利用者全員で外出し、桜や紅葉を観賞したり外食を楽しんでいる。開設から10年近くたち町内会との交流も年々深まっている。町内会と合同で行っている交流会は町内の一人暮らしの高齢者も参加し、毎年の定着したイベントになっている。家族や町内会役員、民生委員、包括職員が参加する運営推進会議は活発な意見交換や要望が聞かれ、認知症に関する研修等も行っている。中の島は防火のモデル地区になっており、ホームの消防訓練には多くの町内会役員が積極的に参加している。町内会の緊急連絡網には「みのり中の島」も含まれており、近隣住民から一時避難場所の提供があるなど、災害時の協体制度もできている。また馴染みの方々から来訪しやすい雰囲気づくりを常に心がけており、家族や親戚、知人や懐かしい友人などの来訪も多い。職員育成のための法人の教育システムは整っており、新入社員3か月研修、1年研修、2年研修と段階的にしている。役職者に対する研修も定期的に行われている。また虐待防止や身体拘束をしないケア等、数々の外部研修も職員が随時参加しており、入居者対応における教育も充実している。職員は毎年個人目標を掲げ、事業所の理念、事業所目標とともに目標達成に向けて常に振り返り行動し、入居者へのよりよいケアの実現に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄中の島駅から徒歩5分程の交通の便が良い場所に位置するグループホームで、近くにはスーパーや病院、神社、公園もある等環境にも恵まれている。3階建ての1階が同法人経営のデイサービスで、建物の2～3階部分がグループホームになっている。2つのユニットが同じ造りで全体が清潔である。「おだやかな心で、その人らしい毎日を安心して過ごせる生活環境を守り育てよう努めます」の項目を含む2項目からなる事業所理念に対する職員の理解度が高く、職員の言葉づかいはゆっくり穏やかで優しく、利用者をせかせよな場面はみられない。職員は入社後も定期的に法人のマナー研修を受けている。地域とのつきあいが深まっており、年1回の町内交流会には、職員と利用者が全員参加して、ボランティアのバルーンアートや合唱等を楽しんでいる。地域中学生の職場体験も毎年受け入れている。2か月に1度の運営推進会議には町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、防災や地域交流、外部評価等について話し合い、議事録も全家宛宛に送付している。居心地のよい共用空間づくりがなされており、食堂スペース、ソファコーナー、畳の小上りのスペースと、利用者はそれぞれの好みの場所で自由に過ごしている。大きなベランダもあり、外気浴を楽しむこともできる。利用者個々の居室入口にはぬいぐるみが飾られ、テレビやたんす、鏡台、写真等が持ち込まれ、居心地のよい空間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みのり中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」と掲げ、朝の申し送り時に定期的に唱和することで職員の意識を高めている。	毎朝合同朝礼があり、月曜日には企業理念と月間・事業所・個人目標及び事業所独自の理念を確認している。理念は、パンフレット、玄関、スタッフルームに掲げられ、職員は理念を良く理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花植えや公園の草取り・ゴミ拾い、町内バス旅行等の町内行事に入居者さんと共にできるだけ参加し、顔なじみの人に会ったり、近くのお店に買い物に行ったりと地域で暮らしている実感が持てるようにしている。	町内会行事が盛んで、ソフトボール大会に職員が参加し、年1回の町内交流会には、職員と利用者が全員参加して、ボランティアのバルーンアートや合唱等を楽しんでいる。神社の祭りには、事業所の前で神輿の披露がある。地域中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や消防訓練、町内交流会等で入居者さんと触れ合う機会を作り、どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2カ月の活動報告や外部評価の結果、社内モニタリング結果を伝え意見を聞いている。	会議は、2か月に1度、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、防災や地域交流、外部評価等について話し合っている。議事録も全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では必ず地域包括センターの職員に参加してもらいホームのケアや取り組みを伝えている。消防には訓練の届を出す際は運営推進会議への参加をお願いしている。	市の担当者には相談や報告を行っており、運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加を得ている。管理者は市・区の管理者会議に毎回出席して区の役員も引き受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が順々に虐待防止研修に参加し、研修報告書を作成し回覧することで情報共有し、自分の行っているケアが虐待にあたらないか日々振り返って確認している。	法人本部で年1回「身体拘束・虐待防止委員会」が開催され、事業所から毎年2名ずつ参加している。今年度は身体拘束に関する意識調査も行われたが、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の職員理解度は今後の課題である。各ユニットの入り口は施錠せず、センサーで人の出入りを把握している。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について職員の理解を深める取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で身体拘束防止委員会やマニュアルがあり、どんな状態が拘束にあたるのか、本人や他入居者に危険があり、他に手段が無く行う場合はどんな手続きが必要なのか学んでいる。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活支援事業や成年後見制度について学び、必要時には活用できるよう検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要な部分は特に時間をかけて説明し、質問しやすい雰囲気を作っている。改定がある場合は文章と口頭で説明し、わからないところはいつでも聞いてもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望は都度聞き、ケアプラン等に取り入れている。家族が職員にじかに言いづらい場合は、1階玄関入口に本社直通のご意見箱を設置している。	月2～3回程、家族の訪問があり、毎日訪問する家族もいる。家族意見は「家族対応記録」に記録し全職員で共有している。各ユニットのスタッフルームに家族への連絡メモを入れるポケットを利用者ごとに用意している。お便りも毎月家族宛に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と年に2回面談を行っており、その他ユニット会議やカンファレンス、社内の会議資料で要望・意見を書く欄がある等、聞く姿勢が作られている。	毎年2回、管理者と職員の個人面談があり、職員は事前に既定の自己評価表を作成し面談に臨んでいる。また、毎月のグループ部門会議では、資料作りを職員が交代で担当し、全職員の意見を聞いている。ユニット合同の会議も年2回程開催されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の努力や実績が反映される。また、年に2回個人考課表をつけてもらい、管理者が評価をすることで個人のできていること、できていないことを把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し、休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議の参加や、豊平区の管理者役員になることで同業者との情報交換やコミュニケーションがとれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では家族も参加し、本人の抱えている不安、要望などを聞いている。入居後も信頼関係が築けるようコミュニケーションをとり、本人が安心できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では家族が抱えている問題や、不安なことなどを重点的に聞いている。来訪時には意見や要望などがないか都度尋ね関係づくりに努めている。また、必要時は面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望や意見はその都度聞き、他のサービス利用も視野に入れ、その時に必要な支援をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは一緒に参加してもらい、入居者さんから得意分野のことは教えてもらう等、お互いに助け合う相互関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に相談し協力し合い、本人と家族の絆を大事にしながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などがいつでも来訪しやすいような雰囲気や環境づくりに努めている。来訪時や電話の問い合わせにも丁寧に対応し、大切な関係が途切れないよう職員全体で支援している。	友人や以前近所に住んでいた方の訪問を受ける利用者が4人程いるので、ゆっくり話ができるように居室に案内しお茶を提供している。家族の協力を得て馴染みの場所や美容院に行ったり、正月やお盆を一緒に過ごす方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や生活などを考慮し、それぞれが行えること・共同でできることを把握し、役割分担を行い、お互いが支え合う関係づくりに努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、いままでの関係性を大切にしながら、必要に応じて利用者様本人・ご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望等の聞き取りをすることはもちろん、入居者さん同士の会話の中にも耳を傾け意向の把握に努めている。	職員は、思いや意向を表出できない利用者には具体的な表現で問い掛けし、表情やしぐさ等を参考に希望を把握している。アセスメントシートの定期的な見直しは、前回に引き続き今後の課題である。	アセスメントシートを定期的に見直ししていくことを期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでどのようなサービスを利用してきたのか、入居の際に家族や本人に確認している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ体調や精神状態に変化がないか観察し、ケース記録に詳細に記載している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、担当以外のスタッフの意見も取り入れ、必要時には医師を含めたカンファレンスを行い、現状に即した介護計画が作成できるよう話し合っている。	利用開始時に介護計画を作成し、2週間、1か月、3か月毎に見直している。その後は、状況が変化しなければ3か月毎に見直している。介護計画は、本人・家族に説明し、納得の上で署名捺印を得ている。日々の記録も計画目標に沿って行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務に入る前に、職員間連絡帳・医療関係記録・訪問看護師記録・ご家族対応記録・個人のケース記録・業務日報などを必ず読むようにし、情報を共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況・希望により、入居者の買い物をスタッフが代行したり、病院受診の同行をしたりしている。家族の来訪時には居室で一緒に食事を摂れるよう支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験や実習生の受け入れ、町内交流会などを通じて地域住民と交流できるように支援している。また、消防職員の指導のもと消防訓練にも参加し、その際には町内会の方々も見学に来ている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意向を大切にしている。全員が定期的に訪問診療を受けているが、必要に応じて訪問診療医や家族と相談し、家族同行でその他の医療機関も受診している。	協力医療機関の内科医師が毎月2回、協力歯科医師は毎週往診している。他科の通院は基本は家族対応となっている。医療情報は「受診対応ノート」「くすりファイル」で全職員が共有している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回看護師対応で健康チェックをしている。その際には、日常の様子、訪問診療や受診の内容、薬の変更などの情報も共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院によるADLの低下を防ぐため、医師や看護師などと情報交換や相談などを行い、実際に面会に行き状況を把握し、できるだけ短期間で退院できるよう支援している。また、職員間でも情報を共有し、ケアプランの見直しなどを含めて退院後の状態に対応できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を定め、できるだけ早く家族や医療関係者などと話し合い、最善の方法を提案している。	利用開始時に「重度化(主に看取り)に関する指針」を本人・家族に示して説明し、同意書に署名捺印を得ている。重度化した場合は、医師の意見を聞き再度話し合いを行っているが、現状では看取りの状況には至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には研修の機会が設けられ、札幌市消防局の普通救命講習を定期的に通っている。また、社内の看護師より緊急時対応の講習を受け、実践力を備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も入っている緊急連絡先を活用し、町内会参加のもと昼夜両面での消防、避難訓練を行っている。また、運営推進会議を通じて協力体制についての話し合いなどを行っている。	消防署の協力を得て昼・夜間対応の避難訓練を各1回ずつ行っており、多数の町内会役員等の参加を得ている。今年、札幌市防災協会主催の実務研修会で4人の職員が救急救命訓練を受講している。災害時の備蓄品も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に努めている。ケース記録等は他者から見えないように配慮している。	利用者の呼びかけは名字に「さん」づけとし、職員は利用者によさく声かけしている。職員は入社後定期的に法人のマナー研修を受けている。記録類は事務所で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを積極的にとることで、思いや希望を表し自己決定できるような働きかけや配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、希望や体調を考慮し、意思に沿った対応が出来るよう努めている。得意なことや興味があることが行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人の希望を聞き対応している。化粧品もそれぞれの好みの物を購入し、使用している。個人の好みを尊重し、洋服の合わせ方や毎日の洋服選び等の支援をしている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で料理の下ごしらえや配膳後片付けを職員と一緒にしている。作り方や好みを聞いたり、食席を共にすることで味の感想や意見を聞いている。	利用者が食器の片付けやテーブル拭きなどを手伝っている。職員が昼食に同じ食事をとっていないユニットがあるが、夕食や行事でのバイキング、お好み焼きづくりなどで同じ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、摂取量が少ない入居者には声かけを行う。お茶を好まない方には、違う飲み物を勧める等している。メニューは社内の栄養士が考えた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけ見守りをし、介助が必要な場合は介助している。訪問の歯科衛生士から歯磨き指導を受けている入居者には、指示された内容に沿って口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録し、間隔が空いている場合や、落ち着かれない様子の方にはトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	半数ほどの利用者は自力でトイレに行くことができ、誘導や介助が必要な方は排泄チェック表でパターンを把握しながら支援している。誘導の際は耳元で、小声で声かけしている。夜間は睡眠状況を見て部屋でパッド交換などを行う場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供し、飲み残されている方には全部飲むように声かけしている。水分が進まない方には食事やおやつ以外の時間でも勧める対応をしている。体操やパワートレーナーの使用も合わせて勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望の時間に合わせて入浴の声かけを行っている。その日の体調を考慮し、自分でできることは行うよう声かけし見守りしながら、入浴介助を行っている。	毎日入浴可能で、主に午後に各利用者が週2回程度入浴している。拒否がある場合は時間や日にち、スタッフを変えて入浴を促している。湯加減を調整したり、同性介助にも対応し希望に沿った入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や疲労状態を考慮し適宜に休息の声かけを行っている。夜間良眠できるよう日中の活動量を増やすための支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について全職員が把握し、情報の共有をしている。誤薬防止のため、薬のセットの際や、与薬の際には対応職員以外の職員も必ず確認を行っている。新たな薬が処方の場合は状態変化をよく観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換できるように個々に散歩や合唱や書き物等を勧め支援している。職員は交代でレクリエーションの企画、実行を行っている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は近隣を散歩できるように支援している。月に1回程度は外出行事を企画して季節を感じられるようにしている。体調を考慮し行ける入居者は町内会のバス旅行にも職員同行で参加している。	天気の良い日に周辺の住宅地を散歩したり、ベランダで外気浴をしている。家族の支援で、外食や通院に出かける方もいる。年間行事では花見や紅葉狩りに行っており、その他にほぼ毎月、寿司や中華料理の店などで外食する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に持参している財布や所持金は支障がない限り本人が管理している。買い物があれば外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話を取り次ぐことはもちろん、希望時には時間帯を考慮し電話の取り次ぎをしている。希望時には手紙を預かりスタッフがポストまで出しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには季節を感じられるような飾り付けを行っている。利用者同士でテレビが見れるようにソファや椅子が置いている。テレビを見ていない時や食事の際は入居者さんの希望を取り入れた音楽を流している。	共用空間には食堂スペース、ソファコーナー、畳の小上りのスペースがあり、利用者はそれぞれの場所で自由に過ごしている。大きなベランダがあり、外気浴を楽しむこともできる。季節の装飾や柱時計があり、遊び道具も置かれている。トイレや浴室、洗面所も使いやすく、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食席に気の合う利用者同士が座れるように配慮している。又、独りになりたい時は新聞を読まれたり趣味活動を行えるようにそれぞれの居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族で相談しながら慣れ親しんでいる家具や物を置いたり、家族の写真やバースデーカード、行事で撮影した写真等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室入口には、表札代わりにぬいぐるみが飾られている。室内にはテレビやたんす、鏡台、椅子などを自由に持ち込んでいる。本人や家族の写真、カレンダーなどを飾り、居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置。自室だとわかるように居室の出入り口には暖簾やボックスがあり、ボックスには目印に好きな人形等を入れている。トイレの戸にはわかりやすいように大きな字でプレートを貼っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり中の島 ひまわり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170503874-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから地下鉄駅までは徒歩5分程で立地が良く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も完備し、周囲は商店街で病院も多い。街中でありながら公園や神社などもあり、普段の散歩、お祭り、催事、出店見物、お正月の初詣など季節感を味わえる環境にある。時々利用者全員で外出し、桜や紅葉を観賞したり外食を楽しんでいる。開設から10年近くたち町内会との交流も年々深まっている。町内会と合同で行っている交流会は町内の一人暮らしの高齢者も参加し、毎年の定着したイベントになっている。家族や町内会役員、民生委員、包括職員が参加する運営推進会議は活発な意見交換や要望が聞かれ、認知症に関する研修等も行っている。中の島は防火のモデル地区になっており、ホームの消防訓練には多くの町内会役員が積極的に参加している。町内会の緊急連絡網には「みのり中の島」も含まれており、近隣住民から一時避難場所の提供があるなど、災害時の協体制もできている。また馴染みの方々が来訪しやすい雰囲気づくりを常に心がけており、家族や親戚、知人や懐かしい友人などの来訪も多い。職員育成のための法人の教育システムは整っており、新入社員3か月研修、1年研修、2年研修と段階的にしている。役職者に対する研修も定期的に行われている。また虐待防止や身体拘束をしないケア等、数々の外部研修も職員が随時参加しており、入居者対応における教育も充実している。職員は毎年個人目標を掲げ、事業所の理念、事業所目標とともに目標達成に向けて常に振り返り行動し、入居者へのよりよいケアの実現に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みのり中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」と掲げ、朝の申し送り時に定期的に唱和することで職員の意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花植えや公園の草取り・ゴミ拾い、町内バス旅行等の町内行事に入居者さんと共にできるだけ参加し、顔なじみの人に出かけたり、近くのお店に買い物に行ったりと地域で暮らしている実感が持てるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や消防訓練、町内交流会等で入居者さんと触れ合う機会を作り、どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2カ月の活動報告や外部評価の結果、社内モニタリング結果を伝え意見を聞いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では必ず地域包括センターの職員に参加してもらいホームのケアや取り組みを伝えている。消防には訓練の届を出す際は運営推進会議への参加をお願いしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が順々に虐待防止研修に参加し、研修報告書を作成し回覧することで情報共有し、自分の行っているケアが虐待にあたらないか日々振り返って確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で身体拘束防止委員会やマニュアルがあり、どんな状態が拘束にあたるのか、本人や他入居者に危険があり、他に手段が無く行う場合はどんな手続きが必要なのか学んでいる。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活支援事業や成年後見制度について学び、必要時には活用できるよう検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要な部分は特に時間をかけて説明し、質問しやすい雰囲気を作っている。改定がある場合は文章と口頭で説明し、わからないところはいつでも聞いてもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望は都度聞き、ケアプラン等に取り入れている。家族が職員にじかに言いづらい場合は、1階玄関入口に本社直通のご意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と年に2回面談を行っており、その他ユニット会議やカンファレンス、社内の会議資料で要望・意見を書く欄がある等、聞く姿勢が作られている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の努力や実績が反映される。また、年に2回個人考課表をつけてもらい、管理者が評価をすることで個人のできていること、できていないことを把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し、休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議の参加や、豊平区の管理者役員になることで同業者との情報交換やコミュニケーションがとれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談から入居日までの期間で面談を行い聞き取りを行った上で優先すべき順位をつけ、職員の中より担当者を選出し初期段階の良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日までの間に面談を行い、介護上一番に困難だと思われることを聞き取りした上で、職員の中より担当者を選出し窓口としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いつでも相談や支援できるように家族には来訪時に近況報告を行い、相談を受けた場合には面談を行い他のサービスを含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてし学ばせてもらう立場にもなりながら、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を見守りつつホームでの生活状況を常に家族へ報告し、情報の共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に写真を置くなど環境づくりを行い、手紙や年賀状が届いた時などは本人に見てもらい家族に報告している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の間に入り話題づくりを行い関わりを持てるように努め、本人の出来る家事を分担し行う事で関わりが持てるように支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入院先などへ向かったり、家族にはいつでも相談くださいとの声かけは忘れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月ごと又は状態が変わった時、退院時はケアカンファレンスを行い、状態を話し合い介護計画を見直し反映させている。出来るだけ本人の意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式からの情報やご家族からの聞きとりを多くし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、ケース記録や連絡帳、業務日報にその日の状態、様子を詳細に記載しスタッフ間で共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係者の意見を取り込み、入居者本意の介護計画をチームで話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入居者の1日の様子を記載し、体調や状況の変化が分かるようにしている。また、朝、夕に申し送りを行い情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、本人の状況の変化を注意深く観察し、随時見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したり、中学生の職場体験を受け入れたり積極的に交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時に連携医療機関の説明をし、訪問診療、訪問歯科、緊急往診はスタッフが対応し適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回社内の看護師が健康チェックをしている。看護師には訪問診療や受診時の情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き状況を把握し、看護師やソーシャルワーカーから情報を収集し家族と連携して早期退院に繋がるよう勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を定めていて、出来る限り早い段階で、家族、医師、看護師などと話し合いより良い方法を提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に研修委員会があり、職員は消防局の普通救命講習を受講している。他に社内の看護師に講師になってもらい緊急対応研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の災害時連絡先を活用し、町内会参加の上での昼夜両面の避難訓練を行っている。運営推進会議でも地域との協力体制や災害時の避難場所についても話し合っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し、対応している。記録等は他者が見えないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と積極的にコミュニケーションを取ることに勤め、意思をくみとり、自身の意思の表出を導けるよう声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、運動など、入居者の意思や体調を考慮し思いにそった対応が出来る様勤めている。又趣味や特技を個々のペースに合わせて活かしていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、本人の好みの髪型にしてもらっている。外出時など洋服の合わせ方などを一緒に考え支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められているが、似た様なメニューが続く場合は現場の判断で一部変更している。食事後の後片付けを手伝ってもらいながら、味の感想などを聞いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を逐一記録し、過不足があれば声かけや減量などをして適切に摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、支援をしている。口腔内に異常があった場合、訪問歯科と連携し、処置にあたる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけ、間隔や状況をみてトイレ誘導をしている。できるだけ利用者自身で行ってもらい、必要な部分のみ介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように声かけをし、他にも起床時に牛乳を提供したりしている。毎日、手足の運動をして身体を動かすよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好みの温度や入浴時間の希望を聞いている。また、体調の変化に合わせてシャワー浴にするなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や疲労を考慮し、体操や運動などを声かけして夜間はぐっすり眠ることが出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は説明書をよく読み、医師の指示に従って服薬介助するようにしている。また、処方薬の変更などがあった場合、受診対応のノートを見る事でスタッフ全員で情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事などの家事や居室掃除等を支援している。合唱やDVDをはじめとした楽しめる事を支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩の支援や、ベランダでの日光浴の声かけをしている。本人の希望を把握し、ご家族と協力しながら外出の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭出納帳でお金を管理し、本人の希望に応じてご家族と連携して買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族や大切な人と話すことや、本人の希望があれば手紙の代読の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間のを清潔に保つよう、毎日の掃除はもちろん入居者さんが不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席、ソファ、畳み、カウンターなど状況に応じて過ごせるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の位置などは動線を考慮し、事故がなく本人が居心地よく過ごせるよう、本人やご家族と相談し工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置。自室だとわかるように居室の出入り口にはボックスがあり、ボックスには目印に好きな人形等を入れている。食席は本人が動きやすいように配置している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり中の島

作成日：平成 28年 1月 2日

市町村受理日：平成 28年 1月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	法人で「身体拘束・虐待防止委員会」が開催され、身体拘束に関する意識調査なども行われているが、スタッフの「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての理解にばらつきがある。	身体拘束の11項目を全スタッフが正しく認識できる。	スタッフルーム内に「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為(身体拘束11項目)」を掲示し、折に触れ各自読んで確認する。	1年
2	23	入居時や大きく変化のあった時はセンター方式のシートを活用しているが、アセスメントシートの追加や見直しが充分ではない。新しく入ったスタッフが見た時に、状態の変化が一目でわかるようになっていない。	アセスメントシートを定期的に見直し、誰が見ても入居者さんの過去の状態から現在の状態にどう推移しているか、どんな新しい情報があったかわかるようにする。	大幅に変化のあった時以外は、すべてのアセスメントシートを記入し直すのではなく、定期的に変化のあった箇所を色を変えたペンで付け加え、いつ記入した情報なのか、どう状態が移り変わっているのか、わかるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。